

コラム

情報活用能力育成のための カリキュラム・マネジメント実践事例 ～人的物的資源の活用とICT環境整備～ －21CALプロジェクト－

21CALプロジェクト立ち上げまでの経緯

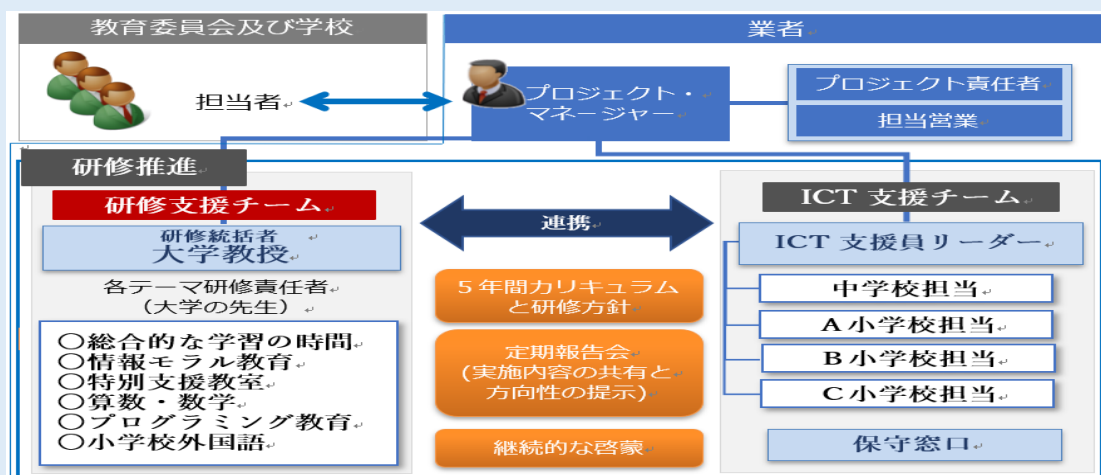
情報機器の導入時より、このような課題がありました。

- ・導入したPC教室、電子黒板、大型モニターの利活用が進んでいない
- ・「対話的な学び」「主体的な学び」「深い学び」「探究的な学習」「グローバル教育」「情報活用能力」への対応・検討が出来ていない
- ・新学習指導要領の趣旨に沿った教育計画への対応が行えない
- ・ICT環境の導入に対する成果測定が行えない
- ・環境の提供だけではなく、教員の資質・能力向上を現場の負担なく実施できるサポート体制の提供が必要

- 2017年10月。A町教育委員会では、21世紀の世界で活躍する人材育成を目指し、授業で大いに活用されるICT基盤の構築を図ろうと考え、業者委託をすること決めました。翌年1月にB社とコンサルティング契約を結びました。
- 2018年2月～7月。B社による町内4小中学校へのヒアリング、ICT環境やサポート体制の検討を行い、計画の立案が行われました。
- 2018年11月～2023年10月。「21CALプロジェクト(21世紀の世界で活躍する人材を育てるためのA町アクティブラーニングプロジェクト)」が発足。ICT支援員による授業支援が行われています。

研修推進支援体制について

- 業者の「研修支援チーム」と「ICT支援チーム」が連携を図り、教育委員会や学校と連絡を取り合いながら支援にあたります。



- 研修支援チームは、教職員への研修及び指導を行います。各校を回り、現場の先生方から、課題や不安、意見等をヒアリングし、方向性を決めだし、先生方との意識を統一していきます。決めた方向性をもとに、5年間のカリキュラムを策定し、先生たちへの支援を継続的に行います。
- ICT支援チームは、スタート時から一年は、初期体制として小中学校にそれぞれ1名ずつ常駐し、二年目以降は、4校で1名体制となります。曜日決めて各校を回り、1日常駐し、各学校の先生方に、導入研修および新任教員用研修等を実施します。月に一回、各校で勉強会を開催します。

<主な支援内容>

- ・ ICT機器を活用しての授業打ち合わせとそのサポート
- ・ 機器、ソフト、教材等の紹介や活用方法の助言や提案
- ・ 機器の操作支援
- ・ 活用事例等の収集及び提供
- ・ デジタル教材、操作方法や使用上の留意点などのマニュアル作成
- ・ 教職員研修の実施支援

ICT環境整備について

- タブレットの運用状況

ログオン	小学校3年以下：入力なし 小学校4年以上：(ユーザ名) ローマ字 (パスワード) 名簿番号 中学校：(ユーザ名) ローマ字 (パスワード) 個別管理
ファイル保存	各校にファイルサーバ設置。アクセス権を設定。 作成単位：個人、クラス、各学年、全学年、生徒会 ※各種制限を実施
ネットワーク	学校内ネットワークのみで接続可能 ログオン：パスコード有 (パスコード変更可) ファイル保存：iPad (特別支援学級利用) 内に保存

実際に運用してみて

- 児童・生徒が一人一台ずつ所持し、ドリル学習や調べ学習、感想の集約・共有等を電子化することで、一人一人の実態にあった、効率よい学習ができるようになりました。
- 教師側でも、電子教科書や具体物を提示することで、視覚的に捉えさせることができ、より理解を深めることにつながりました。
- ◆ どのような場面でどのような使い方をすれば、より効率がよくなるかという課題も出てきました。